

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400671	事業の開始年月日	令和2年7月1日	
		指定年月日	令和2年7月1日	
法人名	スターツケアサービス株式会社			
事業所名	グループホームきらら生田			
所在地	(〒214-0039) 神奈川県川崎市多摩区栗谷3-9-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年11月9日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.starts-care.jp/kirara_ikuta/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・3食の調理をご利用様と一緒に調理する ・地域交流スペースの一般貸出 ・家庭菜園やウッドデッキを活用した外気浴・お散歩 ・行事やレクリエーション活動 ・階段の飾りつけを楽しみながらの階段昇降リハビリ

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日年	令和3年11月25日	評価機関 評価決定日	令和4年1月28日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 きらら生田は、小田急小田原線生田駅南口から徒歩9分ほどの坂道を上がった住宅街に位置している。昨年7月に開所した事業所は、木造2階建ての2ユニットで、地域に開かれた事業所の理念に沿って、地域住民との交流の場として1階には地域交流ルームを設けている。法人は全国規模で介護や保育サービスを多数展開している。法人の企業理念、運営理念は「心を大切にしたいふれあい」としている。</p> <p>【地域に根差した事業所づくり】 開設準備段階から地域に開かれた事業所を目指して、町内会に加入をした。町内会長や地元の有力者、民生委員の方々に協力をお願いして、地域の方に向けた事業所説明会や内覧会を行い、多数の地域住民の参加を得た。 地域の方との「ふれあいの場」として地域交流ルームを併設して地域の方の利用を呼びかけたところ、民生委員の紹介でハンドベルクラブの利用に繋がった。新型コロナの緊急事態宣言中は練習も中断していたが、現在は再開している。その他にも町内会が協賛する「スマホ教室」の定期利用や、学生の楽器演奏の場としての利用がある。利用者はハンドベルの演奏を聞きに行ったり、前の神社で行っている体操に参加をするなど地域の方と交流している。事業所の今年度の目標は「栗谷といえばきらら生田と知ってもらえる施設を目指そう」である。</p> <p>【利用者の残存能力を活かした取り組み】 利用者のできることや得意なことを活かした介護計画を作成している。手芸が好きな方には毛糸を用意して編み物を促したり、布や針、糸を用意して雑巾を縫ってもらうこともある。囲碁の好きな方の対戦相手を地域包括支援センターの職員をお願いして探してもらっているが、コロナ禍もあり外部の方に依頼できない為、将棋のできる職員や、訪問マッサージ師が対戦相手になって囲碁の代わりに将棋をしてもらっている。 以前料理長だった方は、コーヒーを入れたり、ホットケーキを焼いてくれる。また、料理の味見役をお願いしている。また、日課で備忘録を書く方には、残りページを確認しながら職員が記録用のノートを差し入れている。介護計画と連動した支援経過には、利用者の活動している様子を写真入りで記録している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議で共有している。	法人の企業理念「心を大切にサービス提供」と7つの行動指針に沿って利用者のいきいきとした暮らしの実現に向け職員は支援している。日々の暮らしの中で、利用者の小さな思いや希望をくみ取り、実現できるホームを目指している。また、毎年理念に沿った目標を作成している。今年度は地域の一員として地域に根差したホームとして認知されることを目標にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ハンドベルクラブや婦人体操クラブ、気功の会、スマホ勉強会で交流スペースの使用頻度が増え、その中で連携情報共有を行っている。	法人の運営理念の1つに「地域社会の一員として地域の方とのふれあいを大切にします」を掲げていることから地域の方が気軽に利用できる「交流ルーム」を併設している。開設前から町内会に加入して協力関係の構築に努め、地域にも「交流ルーム」の利用を呼びかけた。新型コロナ禍中でもハンドベルクラブやスマホ教室の定期的な利用がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でまだ動けていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で延期しているが報告は行政・ご家族・地域に行っている。	運営推進会議は新型コロナ禍で緊急事態宣言中の開所だったこともあり、書面開催が続いている。運営状況や各ユニットの取り組み、事故報告等を報告書で行政や家族に送付している。家族に運営への関心を持ってもらう意味も込めて職員配置や事故、ヒヤリ・ハットなどを詳細に報告している。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告を行っている。	運営推進会議の報告書の送付の他、川崎市内の系列のグループホームの管理者と共に運営に関する独自の取組みの説明に川崎市役所に出向き、説明をしている。新型コロナ禍での開所ということで地域包括支援センターや多摩区高齢・障害支援課の担当職員とはまだ顔の見える関係はできていないが、今後はできるだけ直接関係機関に出向き、協力関係作りをしていく意向である。	地域包括支援センターや、行政の担当者に運営推進会議の報告書や外部評価結果を持参し、できるだけ顔を合わせて意見交換をする機会を持たれることを期待します。
---	---	---	------------------	---	---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修実施	身体拘束廃止委員会は2か月ごとに管理者・リーダー・正社員がメンバーになり行っている。会議では日々の中で生じた不適切なケアについて話し合い、解決策を検討している。会議の内容は緊急性が高い場合は申し送りで行い、通常は全体会議で共有している。職員は「身体拘束0の手引き」の禁止されている11項目をセルフチェックして、自らのケアを確認している。管理者は職員間で注意し合える関係づくりや、指摘を受けた職員のストレスにも留意している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや会議、研修の実施	管理者は、職員がストレスを溜めないように日頃から「ON」「OFF」の切り替えができるようにと指導している。また、法人は「心のケアダイヤル」を設け、職員が気軽に相談できる場として活用を促している。職員はケアの中で起こりやすい不適切なケアについて「虐待の芽」セルフチェックで確認をしている。またセルフチェックや虐待防止研修で振り返りを行い、職員の理解度や課題の抽出、改善点などを検討して法人に報告をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に実施</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や支援経過への記録、会議での共有</p>	<p>新型コロナ禍中での開所で、家族の面会制限や、運営推進会議への直接の参加もできないことから家族の不安を少しでも軽減してもらうことに事業所として配慮してきた。毎月「生活状況報告シート」と写真で利用者の近況と健康状態、ホームからのお知らせを伝えている。また、ホームの運営に関心を持ってもらうために運営推進会議の議事録を书面報告している。家族から外出の機会が少ないため、特に下肢筋力が低下しないように体操や、階段昇降を取り入れて欲しいと要望があり、ケアプランに取り入れた方もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議にて意見を抽出し、反映するようにしている。	毎月、ケア会議を兼ねたユニット会議と法人の業績報告や方針の伝達、ホーム全体の取り組みなどを検討する全体会議を行っている。ユニット会議は原則全員参加で夜勤明けの職員も参加しやすい午前10時開始とし、シフト以外の職員は休日出勤扱いにして参加してもらっている。会議は職員が活発に意見交換できる場になっている。会議の中で今年度はもっと利用者に「食の楽しみ」を提供しようという意見が出されたため、出前や、テイクアウトを取り入れている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の実施	個人面談は人事考課を兼ねて年2回行っている。その他にも管理者は、職員の表情やケアに向かう姿勢に変化が見られた時などに声をかけ、できるだけ話をする機会を持っている。法人の休暇制度や再雇用制度は整備され、非常勤職員にも「アニバーサリー休暇」として年3日間の休暇が付与されている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施	法人の研修プログラムが充実しており、勤務時間内に受講できるオンライン研修なども実施している。法人は職員の資格取得を推奨しており、研修費用の補助や環境づくりもしている。資格取得者には資格手当も支給されている。内部研修は当日参加が難しい夜勤専従者や、時間給職員には事前に資料を渡し、管理者が個別に指導している。	

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オンライン会議や研修の実施		
----	--	---------------	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時やモニタリングでお気持ちのくみ取りを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プランに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適宜外部サービス、社会資源を活用検討しているがコロナ禍で難しさを感じる。訪問マッサージなどと連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などをできる限り一緒に行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見を取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙を書いている	家族以外の方の面会を制限しているが、馴染の方へ手紙を出す支援や、携帯電話使用の支援をしている。家族から定期的に届く雑誌を読む方や、ホームで取っている新聞を毎朝読む方もいる。以前からの習慣で毎日ノートに備忘録をつける方にはページが少なくなると新しいノートを購入し渡している。以前料理長だった方は、コーヒーを入れたり、ホットケーキを焼いてくれる。味見を頼むこともある。囲碁の好きな方がいるが対戦相手がいない為、囲碁の代わりに訪問マッサージ師や職員を相手に将棋をしている。手芸好きな方には針と布を渡して雑巾を縫ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活ができるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共通の社会資源を通して情報収集しているがまだ退去家族に連絡を取り合ったことはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	プランに反映している	利用者は職員と1対1になる入浴や夜間帯に昔話をする事が多くある。入居から日が浅いため、自宅を気にかける方が多くいる。その思いを叶えるために近くに自宅がある方は、職員が同行し、月に2名ずつ自宅の様子を見に行っている。利用者の話から思いを汲み取ることが難しい場合は、家族に問い合わせることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントレクリエーションに取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残している		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシート、担当者会議の開催	介護計画作成時に利用者、家族の要望を聞き、担当者会議で検討して介護計画に反映させている。介護ソフトを導入して日々の支援経過記録とサービス内容、モニタリングを連動させている。通常は短期目標6カ月、長期目標1年で見直しをしているが、利用者の体調の変化や、状況に応じて随時変更している。ユニット毎のケアカンファレンスには職員全員が参加をして意見交換をしている。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議や日々の申し送りにて情報共有し更新している		
----	--	---	----------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事レクや行事レク、買い物散歩などコロナ禍ではあるが できる限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで資源拡大はまだできておらず		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の実施	従前からの主治医の往診を受けている方が2名いる。その他の方は月2回の協力医（内科）の往診を受けている。専門科受診は家族対応としている。週1回、協力医療機関の訪問看護師が利用者の健康チェックと職員からの医療面の相談事に応じている。訪問歯科は、初回の無料検診の後、治療や口腔ケアなど必要に応じて個別に契約をもらっている。訪問マッサージを利用する方は歩行や動作などのアドバイスも受けている。歩行状態の確認とリハビリを兼ねて散歩にマッサージ師が同行してくれることもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の実施		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後もMSWとこまめに連絡を取り合い早期退院に努めている</p>		
----	--	--------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象者はいないがマニュアル整備や事前同意書を完備している	入居時に重度化や終末期（看取り）の指針と対応を説明して「事前確認書」の内容に同意を得ている。法人の方針として看取りをしていく方向であり、その時々状況に応じて柔軟に対応していく考えである。開所間もないため該当する事例はないが、今後に備えて終末期対応など年間研修に取り入れている。今後は利用者の状態変化に合わせて、医師や看護師による研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローやマニュアルを掲示		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	フローやマニュアルを掲示	今年度は5月に台風による災害を想定した総合訓練と、9月に地震からの出火を想定した総合訓練を行っている。開所間もないため地域との防災協定や、地域の方への見守りなどの協力要請、消防団への協力依頼等は今後の課題にしているが、すぐにできることとして冬場の町内の「火の用心」の地域巡回は利用者と一緒に参加の意向を持っている。非常用の備蓄や備品類は法人が一括管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の実施	入職時に個人情報保護について研修を実施している。今年度も接遇マナーについて研修をしているが、トイレ誘導時の声掛けの配慮などは職員によってかなり差がある。管理者は機会をとらえて注意を促している。介護記録を入力するタブレットやパソコンは職員毎にパスワードが決められ、事務所内のパソコンはIDとパスワードで管理され使用者も限定している。	利用者へのトイレ誘導時の声掛けはプライバシー保護の観点から最も基本的な接遇ととらえ、不適切な声掛けに気付いた際は、互いに注意ができる職員間の関係づくりを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋がっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋がっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋がっている		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できるだけ台所で家事を実施してもらえよう支援している</p>	<p>日々の食事は3食とも、食材購入から調理までを職員が担っている。開所当初は利用者も一緒に車で近くのスーパーに買い物に行っていたが、新型コロナの感染拡大のため現在はネットスーパーも活用している。調理の得意なパート職員がメニューを考え、調理を担当している。今年度は利用者「食」を楽しんでもらおうとの職員の提案があり、麺類の出前やファーストフード、寿司などのテイクアウトを取り入れている。誕生日はケーキを購入して祝っている。</p>	
----	----	---	-----------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはスタッフが考えているが偏らないよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアの実施と任意で訪問歯科ともご利用者が個別で契約している。 口腔衛生管理体制加算で歯科から指導頂き実践に取り組んでいる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントし必要であればトイレ誘導している	排泄の記録はタブレットに記録をしてモニタリングや定時誘導に生かしている。日中は自立でトイレに行くが、夜間は、転倒リスクを考慮してポータブルトイレを使用している方がいる。入居時には大きなパッドを使用していた方が、入居後排泄のリズムが整ったことで、小さなパッドになった事例もある。トイレは日常清掃に加え、感染予防の消毒を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクター、看護師と連携しレクも体操など取り入れている		

45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望には添えていないが時間はできるだけかけている	入浴は週2回を基本にしている。入浴を好まない方には無理強いをしない対応をしているが、家族に協力を依頼することもある。浴槽の湯はかけ流し、足ふきマットは1人ずつ交換して清潔の保持に努めている。季節の柚子湯や菖蒲湯で入浴を楽しんでいる。片麻痺のある方も浴槽をまたぎやすいように、浴槽、手すりは左右にスライドをする可動式になっている。浴室、脱衣場は温風機やエアコンを備えてヒートショック対策をしている。	
----	----	---	--------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間も設けて個別に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ヒューマンエラーが限りなく起きないように夜勤明けの服薬介助は禁止し、必ずダブルチェックと本人の前での名前の呼びかけの実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に柔軟に希望に沿っている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の力をかりたり、スタッフでドライブにお連れしたり家庭菜園を生かしている	事業所の近くを短時間散歩しているが、家族から気分転換にもっと外に連れ出して欲しいと要望がある。できるだけ外に出る機会を増やすため、気分転換や外気浴を兼ねて中庭の菜園で花を眺めたり、夏には野菜の収穫を楽しんだりしている。また、ウッドデッキに出てお茶を楽しむこともある。初詣は車で出かけているが、運転できる職員が少ないためドライブレクの実現には至っていない。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に小銭・お札を持っている方もいる		
----	--	---	--------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やご利用者個人の携帯から希望があればご家族に繋げている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を実施している	共有空間にはエアコン、空気清浄機付きの加湿器2台に加え、小型の加湿器を設置して温・湿度の管理をしている。更に手の触れる場所のアルコール消毒や、時間を決めた換気で感染症対策をしている。事業所内外は自主検査チェック表、環境整備表や衛生管理表を使い毎日点検をして利用者の安全確保に努めている。リビングには行事に合わせた季節の飾りや、階段にもリハビリが楽しくなるようにと、折り紙で作った色とりどりの飾りつけをしている。朝食後の清掃には、できる範囲で利用者もリハビリを兼ねて参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室で関係性を深める声掛けサポートを実施している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と連携しご本人ともできるだけ話して実施している	居室にはエアコン、クローゼット、照明、3モーターの介護ベッド、ハンガーレールが備え付けで用意されている。防災カーテンは利用者が好みのものを用意している。利用者は自宅から使い慣れた家具や鏡台、仏壇などを持ち込み、自作の絵や縫いぐるみなどを飾り、思い思いの部屋にしている。備忘録を書いたり、本を読んだり、テレビを見たりと利用者はくつろいだ時間を過ごしている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	寄り添いながら機嫌が悪くフロアから出て行ってしまってもできるところまで一緒に同伴し傾聴している。		
----	--	---	--	--	--

目標達成計画

事業所名 ひろーぽーとーんきょう生園

作成日 令和4年2月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	市や包地等との連携の不足	意見交換できる機会を設ける	運営推進会議、報告書送付時へ電話でのやりとり	2ヶ月
2	36	利用者一人一人のマイスターの尊重	不適切な声掛けや支援があると一人一人に合わせた意識向上を目指す	施設内研修及び個別指導	半年
3	35	BCPの整備不足	災害時の万一への出勤体制に各々が理解できる	BCP計画作成、周知共有	半年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。